

静岡大が近く運用を始める指静脈認証



静岡大「指静脈認証」導入へ

静岡大(静岡市駿河区)は、かざした指の静脈で瞬時に個人を識別し、学内の情報システムへのログインや入退室管理などができる「生体認証統合システム」の運用を近く開始する。全国でも先駆的な取り組み。大学関係者は「指1本で重要な用件がすべて済む未来社会への第一歩」とし、2010年度内に学生や教職員ら全約2万人の登録を目指す。

情報や入退室管理

指紋ではなく、指の静脈のパターンを約1秒で読み取って個人を識別する。学生、教職員ら学内全体をインターネットを使って統括する目的から同大が構築を進めている「クラウドコンピューティング」を活用し、低コストでより安定したシステムが実現した。

Q 指静脈認証システム 体の一部の特徴を基に、個人を識別する生体認証の一つ。指先の複雑な静脈パターンの画像を読み取って認証するため、なりすましや偽造、誤認の危険性が極めて低くなるとされる。

年度内 教職員・学生ら 2万人登録

同大がクラウドコンピューティングを使って世界標準認証規格に沿う形で厳格管理している個人のIDや学籍番号、パスワードに、指静脈認証の情報を関連付けることに成功した。教職員の出勤管理や学生の出欠管理、証明書の発行など、さまざまなシステムの自動化に活用できるといっ。伊藤忠テクノソリューションズ(東京都千代田区)などと共同開発した。

同大情報基盤センター副センター長の井上春樹教授(情報学)は「カードを何枚も持ったり多くのパスワードを覚えたりする必要がなくなり、飛躍的に利便性が高まる」と期待する。入退室管理は、10年度中に静岡、浜松両キャンパスに約50ある主要建物のすべての出入り口150~200カ所の導入を目指す。